

★女性部の活動から刺激 自民党は18日、党本部で全国女性部局長・代表者会議を開いた。司会を務めた党女性局次長の大沼瑞穂氏(参院山形選挙区)は「全国の女性部のアイデア豊かな被災地支援や選挙応援などの活動を知り、刺激を受けた」と振り返る。

安倍晋三首相は24日の施政方針演説で「全ての女性が活躍できる社会を創る」と宣言した。「子育て世代をどう支えるかが鍵だ」と語る大沼氏も、育児と議員活動の両立に苦勞している。「男女が家事や育児を分かち合える仕組み作りが必要だ。女性問題は男性問題でもある」と強調する。

国会 短評

★反転攻勢へ政策見直し 民主党政調会長の桜井充氏(参院宮城選挙区)はことしを「反転攻勢の年」に位置づける。「政権交代後、党内はバラバラで意気消沈していたが、改善されてきた」と強調。従来の政策の見直しに着手した。

「非現実的な『旗』を下ろさないと党への信頼は取り戻せない」と言い切る。3月までに安倍政権の成長戦略に対抗する総合的な経済再生策をまとめる予定だ。「経済停滞を招く少子化が国の最大の課題だ。賃上げや正規雇用増への対策も盛り込んで現政権との違いを打ち出し、国民に問い掛けていく」と意気込む。